

テキスタイルフリーマガジン「エムエー」

mA

Textile freemagazine edited by Tama Art Univ.

Vol.03

2018SS

Take Free

0

○ 第3号

「装とテキスタイル」

○ 巻頭インタビュー

テキスタイルデザイナー

氷室友里 さん

今年も大集合! クリエイティブの熱気と驚き!
刺激と発見に満ち溢れた2日間!

国際芸術祭

2018

真夏の デザイン フェスタ

詳しくは↓↓↓



イベント出展者
追加募集受付中!

2018.8.4 (SAT)・8.5 (SUN)
東京ビッグサイト 東4・5・6ホール 11:00-19:00
TOKYO BIG SIGHT EAST HALLS/AUG 4th (Sat) & 5th (Sun), 2018



WWW.DESIGNFESTA.COM

vol.03 / 2018 SS

what is mA ?

mA(エムエー)は、多摩美術大学
テキスタイルデザイン専攻の有志
学生で発行しているテキスタイル
フリーマガジンです。身の周りの
様々なモノ・コトをデザインとい
うクリエイティブな視点から、実
際に見て聞いて感じ、探ったこと
をたくさんの外部の方々へ発信し
ていきます。

contents

00 「装」について p4-5

01 テキスタイルデザイナーと「装」 p6-9 特別インタビュー 氷室友里

02 毛皮と「装」 p10-12 ぼくらのはなし

03 服と「装」 p14-17 幸福と服

04 変「装」と仮「装」 p21-22 えび丸の衣がえ

テキスタイルとは？

世の中に存在する服飾やインテリアなどの布地・織物、またその素材となる繊維質のもののことを指します。また、「テキスタイルデザイン」とは生地や繊維についてのデザイン（設計）のことで、柄はもちろん、素材や構造設計のことで配色などのビジュアルから機能性まで含むデザインを指し、私たちの生活において欠かせないものです。



装

人が幸福を感じる瞬間とは、いつだろう。

「装」には人の気持ちを動かし、

幸福にする力がある。

誰かに贈る「装」

自分のための「装」

人と人をつなぐ「装」

5

今号は「装」という幸福感溢れるキーワードと、

テキスタイルの関係性について

様々な角度からフォーカスする。



人が何かアクションを与えることで、より魅力的になるテキスタイル。
氷室友里のデザインは、どうしてあんなにもワクワクさせてくれるのだろう。
人を楽しませる事ばかりを考えていると言う彼女のデザインの裏側を、
今回のテーマである「装」を交えて取材した。

Special interview

YURI HIMURO

テキスタイルデザイナー 氷室友里 特別インタビュー

7

きっかけは、ワインオープナー

もともとテキスタイルではなくプロダクトデザインをやりたい気持ちが強かったんです。きっかけは、子供の頃家にあった「ALESSI」のワインオープナーでした。女の子の形をしていて回すと手を広げて上下するようになっていて、そんなおもちゃのようなプロダクトにとっても惹かれ、そのオープナーを親が使う瞬間をすごく楽しみにしていました。なんてことのない動きなのだけれど、日常に楽しい要素が自然と溶け込んでいるみたいで、すごくいいなと感じていて。それでプロダクトデザイナーを目指そうと美大を志しました。でも勉強をしていく中で、機能性や効率性を前提にデザインを考えていかなければならない事に、少しズレを感じ始めました。私が惹かれるプロダクトは、バックグラウンドが工芸に近い、便利だけじゃないデザインだなと思ったんです。やっぱり自分がいいなと感じるものを作りたいと思い、ストレートにプロダクトデザインの道に進むのではなく、テキスタイルをバックグラウンドに置いて、デザインに携わりたいと思いテキスタイルデザインを志しました。

◀「FLOWERS」ハンカチブランド「swimmie」にデザイン提供したハンカチ。タグの部分を引っ掛けて吊るすと三角錐に丸まって花束ようになる。写真は、2017年「CASE GALLERY」で母の日に合わせて開催された展示会の様子。

撮影／Masahiro Muramatsu
会場構成／Hamanishi DESIGN

日常を彩るプラスα

大学院に進んだ当時、世間ではちょうどサステイナブルデザインが話題になっている時期でした。再利用素材を使って本当に必要なデザインは何かを考えるといったような。大学でそのようなプログラムに参加していた事もあり、新しくものを作ることが無駄なんじゃないかって思い始めてしまったんです。でも、もともとはワインオープナーをきっかけに、必要最低限だけでなく何かプラスαの要素を入れることで人を楽しめたいとデザイナーを志した事もあって、どんなデザインを目指したらいいのか自分の中で決めきれなくて。それでもう一度考えようと、フィンランドの大学院に入ってそこで色んな考えを振り払って作品作りに没頭しました。フィンランドでは日常を華やかにするプラスαのデザインが自然に認められている文化があり、ああ、やっぱりこういうデザインも必要だと、私はこっちでいきたいと、改めて思いましたね。自分の目指していたものを追っていった結果が今なんです。自分が一番好きなところに落ち着きました。

テキスタイルと装飾

装飾とテキスタイルはすごく相性が良いと思っています。装飾という存在自体プラスαの要素だから。テキスタイルって、単純に形が変わりやすかったり、横を通り過ぎただけでなびいたり、厚みや透け感、柔らかさや重みだったり、比較的簡単にいろいろコントロールできるんです。変化というものにすぐ対応できるというか。だからこそ、それがどう人と触れ合うのか、生活の中で布とどう接してどう変化しているかみたいところを観察してデザインしていますね。そんなことを考えていると"ただ可愛い花柄"とかは、絶対できないんです。布と人の動きと気持ち、色々な要素が重なった瞬間にカチッとほら心が動く。そういうところを狙ってデザインを考えています。それができるのもテキスタイルならではの、ハサミで切ると柄が変わるという今までにないコンセプトも、布という素材だからこそ日常に入り込みつつ、装飾として成り立つのかなって思いますね。

▼ [snip snap series SATOYAMA]

- 8 人とテキスタイルとの関わりの中でハサミで切るという動作に注目した snip-snap textile。二重の構造を持つテキスタイルを開発し、ハサミを入れることにより新たなストーリーを加えることができる。切りかたによって川をつなげたり、湖を作ったり、地面から生える草花に見立てたりと様々な楽しみが広がる。

©YURIHIMURO2018





▲ [HIDE AND SEEK] ジャガード織りの技術に応用して、一枚の布で表と裏の柄が変化する生地。表から見ると隠れていた猫が、ファスナーを開けると現れる。

この布はどんな風に使われるのだろう

私は、テキスタイルをデザインする時に、一度プロダクトとして置き換えて考えているというか、最終形態を意識します。その布がどう使われるのかなとか、生活の中でどの位置にいるのかなとか。例えば、最近生地メーカーさんから生地のデザインの依頼がありました。製品ではなく布そのもののデザインの依頼だったのだけれど、それも生地という一つのプロダクトとして考えました。生地ってどういう存在なのだろうと手芸をする人達の話聞いてリサーチし、この生地を手にとった人の創作意欲が湧くような、これを使って想像力が掻き立てられるようなプロダクトとしての反物をデザインしました。なぜこれは布なのだろうとか、この布はどんな風に使われるのだろうとか、そういった観点から考えていった方が手に取る人には伝わりやすいですね。色々な世界があるから、何を目指すのかで変わってくると思うけれど、日常に入り込むちょっとした楽しさや嬉しさのような想像力や感情を動かすものが、私のデザインのきっかけになっていると思います。

なくても良い、でもやっぱりあった方がよい

マイナスをゼロにするのではなく、ゼロをプラスにすることが私の目指すところだと思っています。どうやって人を楽しませられるのかを考えてばかりだけれど、それ自体が装飾の範囲内だなどこのテーマをもらって捉え直しました。装飾があることでその人のお気に入りになれたりその人らしさが出たり。特別なものになるためには装飾は大切なものですね。気持ちと直結しているから少し違うなと思えばすぐ取れるし、その人自身で簡単に操作できるのが良いところだと思います。例えば、ホームパーティーをするときに派手に飾ったり、お気に入りのクッションを部屋に置いたり、そういうことで気持ちはすぐ変わるし、それらが全くない生活ってすごく寂しそうだなって思います。やっぱり、装飾は人の生活や気持ちを豊かにするものだと思うから。無くてもいいけれど、でもそれってやっぱり良いよねって提案し続けることが私の役割だと思うし、そういうところに居続けたいなと思っています。



氷室 友里 YURI HIMURO / テキスタイルデザイナー
1989年生まれ。

2013年多摩美術大学大学院テキスタイルデザイン領域修了。在学中にフィンランドのアアルト大学に交換留学し、ジャカード織を学ぶ。人と布との関わりの中に驚きや楽しさをもたらすことをテーマにデザインを行う。遊び心溢れるオリジナルテキスタイル開発のほか、様々な企業へデザイン提供を行うなど、活動の幅を広げている。



ぼくらはなし

動物のカラダの表面は皮に包まれ毛が生えている。ぼくらヒトのカラダの毛は退化してしまったから、他の動物の表面を纏い、身に着け、重ねてみる。表面を剥がされた動物たちは、表面を剥がしたヒトたちは、過去と未来にどんな選択肢があるのだろうか。



Ester

Penny

boku

Tom

Harry

Catherine

Linus

Mary

Ozwald

Becky

ぼくらと動物の歩み

かつてヒトが裸で狩りをしていたとき、動物を食料としてだけでなく毛皮や骨を道具として利用し始めた。最初は住居の防寒、やがて衣類として身に着けるようになった。ヒトが衣類を身に着けるようになった起源は諸説あるが、動物の毛皮（リアルファー）を剥いでつくった毛皮衣が最初に出現した衣類のひとつだったのは間違いないらしい。寒さや摩擦から身を守るため、権威や力、身分を表すために毛皮衣は当然のように広まっていった。そして、21世紀に生きるぼくらの手元には動物から剥ぎ取ったリアルファーが未だ女性を中心に装飾品として愛用され続けている。

世界中でリアルファーのために失われている命は、毎年1億頭以上にものぼる。衣服だけでなく、バッグ、帽子、アクセサリーなどに加工され、店頭に並ぶ。リアルファーが廃れない背景には、毛皮業界が世間の批判を受け入れ、飼育環境の改善などを進めてきたことが一因となっている。主として動物愛護を訴える団体からの圧力に応じるためだが、毛皮生産者にも結果的に良い変化となった。動物たちのストレス軽減に役立ち、毛皮の質の向上につながるからだ。一方で、脱リアルファーを掲げる No fur の運動に参加する企業も増えてきている。未だに酷い扱いを受けている動物もいることから大手ブランドも続々とリアルファーを制限することを発表し、ファッション業界にも大きな影響を与えている。リアルファーを制限する背景には、かつてフェイクファーと呼ばれた化繊などを使い素材が改良され「エコファー」として人気を呼んでいることや、リアルファーとの違いも減りどのブランドも表現の幅をキープできている。しかし、No fur の取り組みは動物愛護の観点だけでなく、地球への負荷を危惧した取り組みだけれど、その素材開発が別の環境汚染を引き起こしているという話もある。

リアルファーについてぼくたちはどう受け止めるべきか、なにが正解という答えはないのだろう。ぼくらは欲望のままに肉や卵を食べ、ミルクを飲み、革靴を履き、さまざまな形で動物たちへの搾取を続けている。絶滅が危惧されている動物もいるけれど、ヒトが昔から行ってきたその営みを完全に止めることはできない。これからの未来は、動物たちとうまく付き合っていくために知識を得ることが大切であり、そのうえで、個人が選択する時代なのだ。現状を知ったうえでひとつ想像してみてほしい。もし、進化の過程でぼくらの毛が退化せずに、ぼくらより賢い生き物がいたら、ヒトの毛皮でコートが作られていたかもしれないことを。



Tom



My family



Lionel





の Sponsor になりませんか？

mAでは毎号、協賛企業・団体様の広告の掲載、
編集部での広告制作のご依頼も承っております。
また随時設置場所も募集しております。

興味いただけましたら下記までご連絡ください。

詳細の資料をお送り致します。

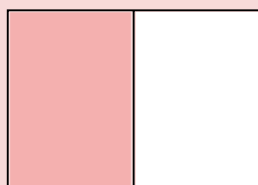
他、ご相談・ご質問もお気軽にお問い合わせください。

ma.freemagazine@gmail.com

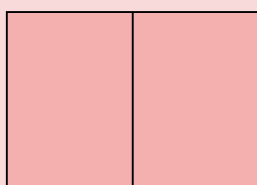
対象：アート・デザイン分野に興味のある方、学生、団体

配布：全国の大学、予備校、ギャラリー、ショップ、百貨店 etc.

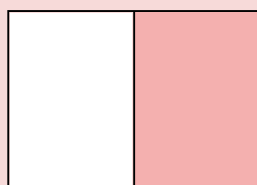
[広告サイズ一覧]



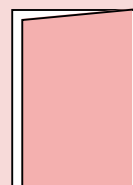
中表紙・B5



中ページ（見開き）・B4



中ページ（1ページ）・B4



中表紙・B5

13

設置場所

●商業施設

- ・渋谷ヒカリエ 8F
- ・Bunkamura ブックショップ
- ・NADiffmodern
- ・Juana de Arco 表参道店
- ・Bookshop LIBRERIA
- ・TOTO ギャラリー 間2F
- Bookshop TOTO
- ・桂屋ファイングッズ株式会社
- 日本橋みやこ染
- ワークショップスペース somenova

●フリーペーパー専門店

- ・ONLY FREE PAPER
- ・無印良品 岡山ロッツ店
- ・MUJI BOOKS ヒカゴブレイス店
- ・只本屋

●ギャラリー

- ・デザインフェスタギャラリー
- ・spiral 青山
- ・ギンザ・グラフィック・ギャラリー
- ・クリエーションギャラリー G8
- ・ガーディアン・ガーデン

●大学

- ・東京藝術大学
- ・多摩美術大学
- 八王子キャンパス / 上野毛キャンパス
- ・武蔵野美術大学
- 鷹の台ホール / 図書館リーフレット棚
- ・東京造形大学
- ・女子美術大学
- ・大阪産業大学

他、各種予備校・商業施設等



14

幸福と肩

Happiness that clothes give you



似合うって大事

服は自分をアピールするための道具であり、武器でもある。自分に似合う服と出会うには、自分のことを知る必要がある。何が好き？何が自分らしい？そうやって服を選ぶことは、自分と向き合うきっかけになる。自分に似合う服を着た自分は、以前よりきっと自信を持てる。きっといつもより少し背筋がのびる。"似合う"ということは、服と着る人のベストな関係だ。服とあなたは互いに引き立て合う。身体の外がわを包む服が、いつの間にかあなたの内がわまでを包み込む。

そして服は、あなたに幸福感をもたらすのだ。

服

服が(言分)を、変える。

服が(言分)を、変える。

あなたが、この言葉を選んだ理由・意味は？

服が(アイデンティティ)を、変える。

服が(住む方)を、変える。

服が(気分)を、変える。

あなたが、この言葉を選んだ理由・意味は？

服が(体型)を、変える。

服が(人)を、変える。

服が(時間)を、変える。

服が(初め)を、変える。

あなたが、この言葉を選んだ理由・意味は？

あなたが、この言葉を選んだ理由・意味は？

あなたが、この言葉を選んだ理由・意味は？

服の価値ってなんだろう

あなたはおしゃれをすることに興味があるだろうか。着るものなんて何でもいい、なんて思っていないだろうか。それでも服を着ないわけにはいかないから、適当に選んで周りに合わせる。そんな風になんとか着ているのではないだろうか。せっかく服を着るのなら、ちょっとでも服に興味を持って、服のこの面白さを楽しまないか？服を楽しむのは大変だけれど、やろうと思えば誰でも今すぐできること。そうしたら服が、ファッションが、この世界に存在する価値を見出せるかもしれない。

服を生かす

衣食住という言葉があるように、布は昔から人の生活に寄り添ってきた。そして服は人にとって1番身近に、しかも1番長い時間触れているテキスタイルだ。私たちが生きるために服は欠かせないし、服を纏うというこの行為は、大きな欲求のひとつかもしれない。あなたが着たその瞬間に、あなたの服は生を持つ。服は、人が着てこそ生きるテキスタイルなのだ。

そして、きっとあなたも自分の表現手段の1つとして、服というものを無意識のうちに使っている。

服が（ ）を、変える。

17

服の可能性

何を着ても様になる人ってたまにいる。そんな人ってやっぱりカッコいいけれど、でも、もしかするとそれは才能のようなものなのかもしれない。才能がなくなったら、自分を磨く努力は大事だし、もっと言うと服を生かしたいという意識も大事。服はそんな才能の差を覆すためにもあるのではないかな？服の魅力を最大限に生かしてやるのができたら。服と仲良く付き合えたら。誰だって才能あるカッコいいやつに勝てるかもしれない。そんな素敵な可能性をどんな人でも、どんな服でも秘めている。

服とあなたのストーリー

あなたの服は、あなたが着ることであなたのだけの沢山のストーリーが生まれる。その服のストーリーに心が躍る。着込むことで、その服は徐々に自分の服になってゆく。馴染む服、似合う服とはそういうものだ。そういう服の、楽しみ方もあるのかもしれない。服に全く無頓着な人でも、どんな服を着ていたとしても、周りからどう思われても気にならないという人も。今から自分と服のストーリーのために、自分の幸福のために、服を着てみないか？

服がきっと、何かを変える。

プラ素材を染める

リニューアル商品ポリエステルダイでプラスチックを染めてみた

桂屋のみやこ染ポリエステル繊維専用染料「ホットダイ P-100」が「ポリエステルダイ」として生まれ変わった。加熱ソーピングが不要になり、より簡単に染色が楽しめるものと好評だ。本来、ポリエステル 100% 繊維の布を染めるものだが、実はプラスチック樹脂もある程度染まるものが多い。ということで今回、身近で手に入るプラスチック製品を染めてみた。

まず、染めるものを調達。100 円ショップを物色してみる。ポリエステルダイは 90 度程度の加熱染色を行うので、品質表示や耐熱温度をよく見て、できるだけ耐熱温度 100℃以上のものを購入しよう。プラスチックの付け爪も購入。金属は染めつかないので、ハサミも購入してみる。ちなみにポリエチレン、ポリスチレンは熱に弱く、変形しやすいので避けたほうが良いだろう。手芸店でポリエステルダイ（今回はナイルグリーンとオレンジ）を購入。いつでも購入できるオンラインショップもあるので通販で購入してもいいだろう。今回用意した道具は耐熱容器、ザル、箸、スプーン、台所用中性洗剤、スポンジ。染色を始める前に染めるものを濡れタオルなどでしっかりと拭いて汚れなどを落としておこう。準備が整ったら早速染色を始めよう。

ブロック玩具や付け爪など細かな物は、後で掬い上げる際に見失ってしまうので、ザルなどに入れて染色する。ハサミなど重いものは箸などではひっくり返しにくいので注意。入れ始めた瞬間からみるみる染まっていくのは実に楽しい。染まり方も物によって違うようだが、大体 5~10 分あれば染まるのでどんどん染めていく。中性洗剤で洗う時はスポンジで擦ると付着した染め液がよく落ちるのでオススメする。いくら耐熱とはいえ、加熱しすぎると変形してしまうので要注意。もし濃く染めたければ長時間浸すのではなく、更に染料を足すかポリエステルダイに同梱されている濃色促進剤を加えるようにしよう。

ポリエステルダイもコールドダイオール、コールドダイホットに続き ECOPASSPORT® を取得しているので安心な ECO 染料だ。ECO 染料なので日常的に使うものでも染められるのが嬉しい。幅広く染められるので装飾等にも使えそう。今回染めたのは、ポリプロピレン（箱、洗濯バサミ、コンタクトケース、ハサミ）、ABS 樹脂（ブロック玩具）、ポリレジン（ミニチュアフィギュア）など。初心者もプラスチックなら簡単に染められるので実験感覚で染色を楽しんでみてはいかがだろうか？

ある程度白いものを染める



プラスチックとはいえ放っておくとムラになることもあるのでスプーンや箸で混ぜながら染色すると○



こんな失敗も……

左の玩具は染まらない上に変形してしまった。耐熱温度が低いプラスチック製品（ポリスチレンなど）は加熱に耐えられない。右のブロック玩具は耐熱以上の温度で加熱してしまい、歪んでしまった。更に、シールなどの粘着痕が残ったままの状態では染め液に浸すと、その部分だけが濃く染まってしまう。また、同じプラスチックでも加工方法や厚さによって必ずしも染まるとは限らないようだ。



変形し
やかん





てしまったブロックと玩具のやかん。
は粘着痕が濃く染まってしまった。



OEKO-TEX®
CONFIDENCE IN TEXTILES
ECO PASSPORT

肌と環境にやさしい ECO 染料

ポリエステル100%繊維が染まる [90°C程度の加熱染色]

POLYESTER DYE

ポリエステルダイ 全14色 各700円+税

加熱染色するだけでポリエステルの染色が楽しめます。※加熱ソーピング不要
混色も自由に出来ます。

内容物：染料 20g、濃色促進剤 20g、染め方説明書

ご家庭で安心、安全にお使いいただけるよう、原料を厳選し、日本国内自社工場での生産に
こだわったECO染料です。2017年6月にコールダイオール/コールダイホットは、家庭用手
染め染料として国際的にも初めて「ECO PASSPORT」を取得しました。2017年11月には、
ポリエステルダイ / 濃色促進剤でも同認証を取得しました。

※ECO PASSPORT: スイスのエコテックス国際共同体が発行する染料等の繊維に使用する化学物質に
対する安心・安全を証明する国際認証。
今回認証を取得したのは、ポリエステルダイ3色（ブラックネイビーブルー・イエロー）と濃色促進剤です。



布 Lab.

1mからはじまる
世界で1つだけの
オリジナル生地



①入稿されたデータは、布Lab.のプリント特性を熟知したデザイナーが一つ一つチェックしている。データチェックを自動化しないのは、お客様のデザインがより最適な条件でプリントできるように、お客様へのアドバイスやお手伝いをするためのサービス開始当初からのこだわり。



②反応性染料インクジェットテキスタイルプリンターで一点一点丁寧にプリントしていく



③ラッピング車両に合わせた座席のパンダのカバー。布Lab.のプリントされた生地は、鉄道会社などでも使用されている。

mA読者限定クーポン

¥500 OFF
クーポンコード
MAYAM18

有効期限：2018年09月30日23:59
※お一人様一回限り。ご注文確定（完了）後のクーポン
適用はできません。ご了承ください。

FABRIC & PRICE

ブロード・ローン・カツラギ・オックス
(プリント可能幅112cm) / 1m ¥3,500
特岡手ぬぐい

(約36cm×90cm) / 1枚 ¥2,000

※綿100%国産生地使用。価格は税込表示、別途送料。

同じ種類の生地へのプリントは11M以上からディスカウント。

詳細はWEBでチェック！

帆布11号

(プリント可能幅108cm) / 1m ¥4,500

1mから気軽に 本格的なプリント

布Lab.では、インクジェットテキスタイルプリンターによるオリジナルプリントサービスを提供している。オリジナルの柄や写真、手描きのイラストなどを1mという小ロットからプリントすることが可能。個人制作の他、アパレル、インテリア、雑貨の商品制作からビジネスの使用まで幅広く活用できる。

布Lab.の最大の特徴は、同じ種類の生地へのプリントであれば、複数のデザインを持ち込んで、追加料金がかからないところ。さらに11m以上からm数に応じて割引もあり、様々なデザインでオリジナルグッズを作りたい人向けのメニューも。ビジネス・OEM対応も行なっている。

5月からは手ぬぐいのプリントもスタート。より手軽に布のプリントを楽しむことができるようになった。

国産生地に 京都でプリント

布Lab.では、コストのかかる反応性染料インクジェットテキスタイルプリンターを使用したプリント加工を取り扱う。プリント工程は全て京都で行い、生地も国産生地にこだわる。

反応性染料インクは、染料が布に染み込むことによって、繊維と結合するため、生地の風合いを維持したまま、摩擦や洗濯による色落ちや移染の心配がない。よって、高発色、高い色彩再現性のプリントを可能にしている。一方で、布にプリント加工、蒸し、水洗、整理と工程が多く、職人技を要する。

経験に裏付けされた プリント技術

高品質なプリントを生地に施すため、納期は10営業日出荷を要するが、オフショーンのお急ぎプリントを使えば5営業日出荷と、業界最速級のプリントが可能である。これらが実現できるのも、着物の生地、京都で育んできた経験に裏付けされた技術によるものである。布Lab.でプリントされた生地は、個人の趣味の裁縫、デザイナーのプロダクトなどの小規模小ロットのものから、アパレルや着物などの服飾、雑貨以外にも、鉄道会社や航空会社などのビジネス利用でも使用されている。是非作品作り、商品作りに活用してもらいたい。



布Lab.
運営会社：合同会社 森林堂
京都府西京区川島滑樋町37-10
050-3590-3599 (森林堂)
info@nunolab.com

www.nunolab.com



おにぎり [RISE BALL]

コーデポイント

かきこまった彼女のご両親への挨拶の時に着ていくんじゃ〜
\\ドキ/

サルサ
[SALSA]

マヨ
[MAYO]

花

[FLOUR]

コーデポイント

オラの肌着じゃ〜
恥ずかしいからあんまり見るな〜!
///

えび [SHRIMP]

おいら「えび丸」!
彼女のカニ美とのデートでも使えるコーデネート、みんな考えてくれ〜

アボガド [AVOCADO]

天ぷら [TEN-PURA]

コーデポイント

寝る時はもちろんこれ!
意外と気持ちいいのじゃおぬしも着るか?

トマト [TOMATO]

ポイント
大流行の
トマトバッグ!

トルティーヤ [TORTILLA]

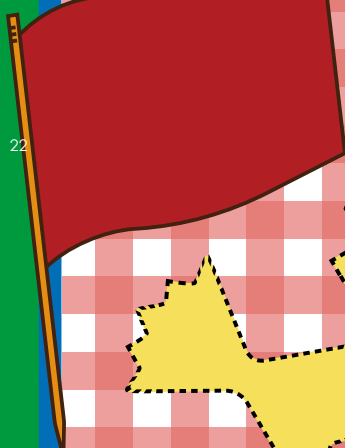
コーデポイント

彼女とのデートは
もちろんこの一張羅!
パシッと決めるんじゃ〜
\\ギラ/

レタス [LETTUCE]

コーデポイント

寒い日はこいつと一緒に〜
ヒトで言う
「まふらあ」ってやつじゃ
\\ボカ/



設置場所

渋谷ヒカリエ 8F
スパイラル
TOTOギャラリー間
ggg
ONLY FREE PAPER
多摩美術大学
武蔵野美術大学
東京藝術大学

他全国百貨店
商業施設
ギャラリー
フリーペーパー専門店
大学、美術予備校

設置場所も
随時募集しております！

the editor's note

発行日 2018年6月

編集長 竹内瑠奈

編集 中島由美子

野口裕香

堀口紗弥

柳沢柚月

黒田朋香

写真 田中佑季

モデル 佐藤玲衣奈

印刷 グラフィック

contact

【Twitter】@ma_freemagazine

【Instagram】@ma.freemagazine

【Facebook】<https://www.facebook.com/ma.freemagazine>

【HP】<https://mafreemagazine.wixsite.com/textile>

【Mail】ma.freemagazine@gmail.com

ご意見、ご感想ありましたらぜひご連絡ください。

SNS も随時更新しております。よろしくお願いします！



HP



Instagram



Twitter

作ってみませんか 世界にたった一つの オリジナルテキスタイル

あなただけの色

あなただけのデザイン

こだわる肌ざわり

洋服

和服

小物雑貨

選べる生地

有名アパレルブランドや和装のデジタルプリントを行う Digma が
その技術や工程はそのままに、小ロットの生地製作を行います。
染料による高品質のプリントを 1m からお楽しみください。



株式会社デジナ

大阪府大阪市中央区船場中央3-1-7 7号館282号

Tel : 050-3852-4758 mail : info@digma.jp

HP : <http://www.digma.jp/>

